



# 平成24年度 学校評価だより Web版

平成25年2月27日  
三郷市立北中学校

平成24年度も残すところわずかとなりました。保護者の皆様には、1年間、本校の教育に、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。年度末に際し、「学校自己評価」を行い、「学校関係者からの評価」をいただきました。今年度のまとめとしてご報告致します。

- ・「学校自己評価結果」－北中学校の職員が4～1の4段階で自己評価したものの平均
- ・「学校関係者評価結果」－5名の北中学校評議員様と4名のPTA役員様に「学校自己評価結果」に対して4～1段階で評価していただいたものの平均

<評価基準> 「4」9割以上の達成率 「3」6割以上9割未満の達成率 「2」2割以上6割未満の達成率 「1」2割未満の達成率

平成24年度 学校自己評価報告書 市教委提出用			三郷市立 北中 学校		校長 谷口 喜久男 印	
評価項目	評価項目	No.	質問項目	学校自己評価結果	学校関係者評価結果	学校自己評価についての評価の説明及び学校の考え
組織運営等の状況	教育目標	1	学校は、児童・生徒及び家庭・地域の実情を踏まえ、適切な目標を設定し組織的に取り組んでいる。	3.35	3.56	「概ね良好」という評価である。昨年度、本欄において「どちらかといえば受け身である北中生には『気づき・考え・実行する』という能動的な目標は適切である。」としたが、今年度も同様の考えである。今年度は「体力課題解決研究指定校発表」もあり全職員で組織的に取り組み、目標の一端において大きな成果を上げた。今後も学校教育目標の趣旨を十分に理解し、その実現に向けて全職員で前向きに取り組むたい。
		2	学校は、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)のもと、学年・学級や教科・分掌等の経営にあたっている。	3.22	3.22	評価ポイントは昨年度より0, 2ポイントほど上昇した。行事については、終了後必ず全職員にアンケートを実施し、次年度に生かすようにしている。分掌ごとの取り組みについては前年度の学校評価に基づいた改善策を生かしながら、定期的に見直しをしている。また、学年・学級経営においても運営委員会や学年会をとおしてPDCAのサイクルにしたがって運営している。学校経営をPDCAサイクルにのせる前提としては、全職員が「学校教育目標」「目指す生徒像」をしっかりとらえることが重要である。目標に基づいたPDCAを確立したい。
	特色ある学校づくり	3	学校は、特色ある学校づくりの観点から教育内容の重点化を図っている。	3.26	3.22	本校の特色は「あじさい運動」である。「あかるい挨拶」「じゅぎょうに集中」「さわやかな環境」「いっしょに感動」どれも職員や生徒の中に根付いている。しかし、「言葉だけの取り組みに感じられる、もっと生徒の心や活動が伴った取り組みにしたい」との声もある。さまざまな工夫で「あじさい運動」を中心に学校教育目標達成に向けた教育活動を展開したい。
		4	学校は、特色ある学校づくりのテーマのもと、教職員の共通理解を図り組織的に取り組んでいる。	3.09	3.22	「C」評価が3名である。「A」評価5名、「B」評価15名「共通理解」「組織的な取り組み」は学校にとって欠かせない要素であるため、来年度は「あじさい運動」の趣旨をとらえ、教育活動と「あじさい運動」とを関連づけながら具体的な活動につなぎたい。
	資質向上	5	学校は、教職員の服務規律の確保に努めている。	3.26	3.33	毎月の職員会議の中で倫理確立の観点から「事故・不祥事防止のためのチェックポイント」等をとおして服務規律の確保について取り組んでいる。教育公務員としての自覚と責任のもと、今後とも服務規律の徹底と教職員事故「0」に取り組んでいきたい。
		6	学校は、教職員の指導力向上に向け、計画的・組織的に研修に取り組んでいる。	3.30	3.44	年間計画に基づきながら計画的に研修に取り組んでいる。夏にはITC活用授業や教育相談、生徒指導についても事例研修等充実した内容であった。また、「体力課題解決研究指定校発表会」に向けての準備等、生徒理解や指導力向上のための良い機会となった。
授業等の状況	学力向上	7	教職員は、学力向上を目指し、児童生徒の実態に基づき授業改善に努めている。	3.30	3.56	・教師の指導姿勢が大切。「やれ」という一方的な押しつけでは生徒は学ぶ喜びを体感できない。授業の中で、生徒の取組や意見を誉めるなど、生徒自身が成長している実感をもてるような支援のあり方を考え、授業改善に努めたい。 ・「よさ」を伸ばす指導の工夫がなされている教科が多い。学力向上に貢献しているものとする。
		8	児童生徒は、基礎的・基本的な学力を身につけている。	2.96	3.22	・定期テスト前の質問教室、個々のレベルに合った補習等を継続して実施する。 ・調査ではいい結果だが、実際は力がついていない。もっと「繰り返し学習」を多用する必要がある。学習に取り組んだ努力が結果につながるための取組について考えたい(帰りの会5分間学習、5分間学習テストの発展について)。 ・ガイダンス等「学習方法を学ぶ」取組をさらに充実させたい。 ・家庭の協力が不可欠。テスト計画表作成後の実践、宿題忘れがないか等の点検(…までいかななくても声がけ程度でも。)について協力してもらう方を立てたい。
	授業規律	9	教職員は、「授業の心得」に基づき授業を進め、教職員の共通理解を図り、指導にあたっている。	3.17	3.67	2学期の実態調査の平均は、生徒89, 4%、教師72, 8%であった。生徒からの課題は「発言するときまっすぐ手をあげます。」74, 2%、「頬杖、居眠り、横座り、立ち歩きはしません。」75, 5%である。教師からの課題は「発言するときまっすぐ手をあげます」39%、「発言している人の話を目と耳で聞きます。」39%である。次年度の課題としたい。
		10	児童生徒は、落ち着いた雰囲気の中で、学習内容を理解しようとしている。	3.61	4	高い評価である。生徒は時間を守り、「授業の心得」に基づいて、落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組んでいる。この雰囲気を大切にしなが生徒ひとり一人の学力向上につなぎたい。
読書のまち三郷	読書のまち三郷	11	学校は、図書館経営を充実させ、読書活動を推進している。	3.57	3.89	・選書しやすい図書の配架、放課後の貸出、読書週間の取り組み、図書委員会活動の活性化、司書との連携等、読書環境の整備を心掛け、読書活動の推進を図った。このことにより、朝読書の定着、図書館利用者の増加など、読書活動が充実しつつある。
		12	児童生徒は、主体的に読書活動に取り組んでいる。	3.43	4	・図書委員会の活動を活性化し、昼休みの開室や環境整備、学級文庫の選書、読書記録カードの集計、読書週間の取り組み等を行った。生徒が読書活動を推進したことで学校図書館が身近になり、主体的に読書活動に取り組むようになった。今後は、特に読書記録カードを有効に活用し、それを基にした校内多読者の表彰や一言感想カード掲示等の取り組みを行い、生徒一人一人の読書に対する意識を高めていきたい。

平成24年度 学校自己評価報告書 市教委提出用		三郷市立 北中 学校		校長 谷口 喜久男 印		
評価項目	評価項目	No.	質問項目	学校自己評価結果	学校関係者評価結果	学校自己評価についての評価の説明及び学校の考え
授業等の状況	健康・体力	13	教職員は、規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	3.35	3.67	・各学年で栄養バランスに関する指導をいただき、子供たちに変容がみられた。今後も食育指導を続けていきたい。 ・専門委員会では、給食で使用されている埼玉県産の食材のポスターや、食事マナー、北中学校における残菜量のポスターなどを掲示し、食に関する意識づけを行った。その結果、残菜が減るなど、食に関する意識が高まった。
		14	児童生徒は、体力向上に向け、授業や部活動・外遊びに意欲的に取り組んでいる。	3.30	3.44	・県の体力向上課題解決研究指定校の発表もふまえ、「保健体育授業の充実」「体育集会」「家庭での運動習慣づくり」「外部指導者を招聘しての部活動トレーニングタイムなど様々な活動を展開した。この結果、本校の体力課題「持久力」の大幅な向上があった。 ・昼休みの時間を5分伸ばし、各学年と連携してボールの管理等を行った結果、昼休みに外へ出て遊ぶ生徒が多くなってきている。
指導・管理の状況	礼儀正しい児童生徒の育成	15	教職員は、自ら手本となる等、児童生徒に対し規範意識を高める指導を行っている。	3.00	3.22	規範意識は大切なことであり、生徒に対して規範意識を高める指導は行っているが、知識指導になりがちで教職員が自ら手本となって規範意識を高めるという点ではまだ不十分である。
		16	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつをしている。	3.09	3.44	来校者に対する挨拶は、生徒が進んで行っている。しかし、友だちや教職員に対する挨拶は受け身で、挨拶をされたからするという生徒が多い。家庭地域と連携して挨拶の大切さ、進んで挨拶をする生徒の育成をしていきたい。
		17	児童生徒は、「です、ます」をつける等、場に応じた言葉遣いをしている。	2.96	3.22	場に応じた言葉遣いなど意識して指導しているが、生徒の実態としては場に応じた言葉遣いが身につけていない生徒が多い。部活での指導を中心に少しずつではあるが、場にあった言葉遣いをしようと意識する生徒が育っている。全職員が意識を高め指導していく必要がある。
	生徒指導	18	学校は、児童生徒の不登校・非行問題行動に対し、共通理解を図り組織的に対応している。	3.04	3.33	毎週生徒指導委員会を開き情報交換を行い、非行問題行動に対して組織的に対応している。しかし、まだ共通理解が出来ていない場面がある。不登校生徒に対しても毎週教育相談部会を行い、相談員やスクールカウンセラーと連携を取り組織的に取り組み成果を出している。今後も職員の共通理解を図りながら組織的に対応していく必要がある。
		19	学校は、保護者(必要に応じ関係機関)と連携を図り、児童生徒の指導にあたっている。	3.13	3.22	校長・教頭を窓口には保護士や警察など関係諸機関との連携ができています。保護者や地域社会の方々へのきめ細かい対応が今後必要である。
		20	児童生徒は、いじめや意地悪な行為をすることなく、お互いのよさや努力を認め合い学校生活を送っている。	3.13	3.22	多くの生徒達は、お互いの良さを認めあって学校生活を送っているが、1、2年生ではまだ意地悪行為など人間関係のトラブルが見られた。毎月、心の安全点検などを行い、いじめや意地悪行為の予防や早期解決に努めてきた。また、道徳の時間に、共通資料でいじめについての授業を行うなどいじめ撲滅に向けての取り組みを行ってきたが、引き続きいじめ撲滅に向けての指導を行う必要がある。
	安心・安全	21	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.22	3.78	各教室に災害発生時の対応マニュアルを掲示した。学期に1回、計画的に避難訓練を行うことができた。
		22	学校は、定期的に安全点検を実施し、計画的に安全指導を行う等、日頃から安全な教育環境づくりに取り組んでいる。	3.39	3.56	毎月1回定期的に安全点検を実施し、危険箇所の確認、修繕をすることができた。
	環境整備	23	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れる等、組織的に環境美化に努めている。	3.39	3.22	清掃カットが少し多かったが、日程変更により少し改善がみられた。掲示物に関しては各担当が掲示活動を行い、よくできている。掲示活動では、一般ポスターなどを掲示している。
		24	学校は、学習環境充実のため、教材・備品を整備している。	3.09	3.33	教材・備品の整備も進んでいる。今後も整備に努めていきたい。
家庭地域との連携状況	家庭・地域との連携	25	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報提供している。	3.65	2.89	すべての項目の中で最も「A」評価が多かった(23名中15名)。定期的なホームページの更新(1月現在県内17位)、月に一度の「学校だより」「保健だより」の発行、その他、定期、不定期に「学年通信」「学級通信」がなされている。今後とも続けたい。
		26	学校は、保護者や地域と連携し不審者対策のパトロール等、計画的に実施している。	3.22	3.56	不審者についての情報は「まちcomメール」を活用し保護者等に配信している。また、祭礼や長期休業中に巡視を行ったり、育成会において計画的に街頭指導を行っている。加えて、地域からの通報の際や、生徒が集まりそうな場所には定期・不定期に足を運ぶようにしている。
		27	学校は、PTA活動や地域活動に積極的に協力している。	3.35	2.89	最も大きなPTA行事が「北中フェスタ」である。多くの職員が協力的に参加し、生徒のボランティアを募る等、生徒も含め協力的であった。また、「第2大場川浮遊ゴミ等回収大作戦」や生徒会主催の「クリーン作戦」への参加等へも協力的であった。また、吹奏楽部による様々な公共施設での演奏活動も行われた。今後ともPTAとの連携や地域への貢献に積極的に取り組み、つながりを強くしたい。

【参考】「本校の教育に関するアンケート結果」北中PTA理事の皆様へアンケートを実施し、17名の方に回答をいただきました。ありがとうございました。

＜北中学校の教育に特に望むものを3つ程度選んでください(複数回答可)＞

- ①学力の向上(17) ②特色ある学校の推進(1) ③どう生きるか(生き方)指導(7) ④生活態度、しつけ指導(3) ⑤学校行事の活性化(1) ⑥道徳心、思いやりの心の育成(9)  
⑦体力の向上(3) ⑧高校進学への指導の充実(11) ⑨地域に開かれた学校づくり(1) ⑩その他(3)内容(・命の大切さ・部活動の数・部活動の積極的活動、支援)

評価内容		A	B	C	D
1	中学校は学校の様子を積極的・具体的に伝えている。	13	4		
2	北中は自校の特色がわかるような教育活動の展開をしている。	7	10		
3	学校は保護者や地域の皆様が、学校を見学できる機会をよく設けている。	10	7		
4	学校生活のきまりは適切といえる。	6	11		
5	学校は子どもや保護者が困ったときは親切に対応してくれる。	8	6	3	
6	運動会や合唱コンクールの学校行事で子どもたちは生き生きと取り組んでいる。	11	5	1	
7	子どもは授業の内容を理解できている。	4	10	3	
8	子どもは家庭学習習慣が身につけている。	5	7	5	
9	子どもは学校生活を通して少しずつ成長している。	9	7	1	
10	子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。	7	6	3	1